

秋田県内の在来果樹に関する調査

1. カキに関する調査

鈴木 宏・丹野貞男・田口辰雄

目 次

I. 緒言	19	1. 調査方法	20
II. 秋田県在来「カキ」の来歴と特徴	19	2. 調査結果	21
1. 横手カキ	19	3. 考 察	21
2. 雲然カキ	20	IV. 摘要	25
3. 松原カキ	20	V. 参考文献	25
III. 在来「カキ」の形質調査	20		

I. 緒 言

秋田県内には、カキ・ナシ・ウメ・クリなど、いわゆる在来果樹といわれるものが、各地に散在、または集団で植わっている。これらに関する調査記録のまとまったものは見当たらない。昭和10年頃に山本(13, 14, 15)が秋田県内の特産果樹として記述しているが、形質、生態についての詳細なものは見当たらない。昭和53年に広島県果樹試験場長より、農林水産省農蚕園芸局で実施中の種苗特性分類調査で、カキの種苗特性分類調査事業を担当することになったので、秋田県原産または、県内に広く分布しているカキの地方品種についてのデータが必要であるから、調査してほしいと依頼を受けたので、県内の在来カキについて調査を行なった。県内における在来カキについては俗に横手市を中心に分布している「横手カキ」、仙北郡角館町に分布する「雲然カキ」、秋田市添川に分布する「松原カキ」について調査を行なったので、その結果を報告する。

この調査に当っては、横手市農林課菊地広課長補佐、角館農業改良普及所工藤孝信普及専門員、秋田農業改良普及所古谷一男普及専門員、栽培農家の協力をいただいた、ここに深謝申し上げます。

II. 秋田県内在来「カキ」の来歴と特徴

1. 横手カキ

横手カキは、横手市の名産として知られ、内町屋敷の家々に植えられていたものである。秋田県における宅地利用果樹の一つであるが、栽培管理も行きとどかず落葉褐斑病に罹り、結実も昔日の如くでなく、また消費者の嗜好の変化、さらには放任されて大樹になり最近に至っては採取する者もなく、ただ鳥の餌になって初冬の風物詩的存在になっている。

横手カキの沿革について藤田(12)山本(13)らによると「1624年(寛永元年)今から約350年の昔、横手城主戸村公江戸上りの節、家中の大瀬宇左衛門お供に加わり、その途中に於て、見事に結実したカキを得た。しかし藩公の供中なればと、公威をはばかり、翌春四月に至り、その地に赴き二種の穂木を持ち帰りこれを接木したものが、横手カキの起原であると云われる。しかし、その地名明らかないかに茨城県下であらうとの説」、当時一種は大瀬宇左衛門自ら庭園内に植え付けたといわれ、横手市馬場先町大瀬貴真宅の庭前にあり「宇左衛カキ」と呼ばれていたが、昭和53年の調査の際にはすでに原木はなかった。また、他の一

本は本家大瀬伊左衛門に分けて植えたと言われ「伊左衛門カキ」と呼ばれていたが原木は明治維新前に焼失枯死した。広く横手カキと称されているのは「伊左衛門カキ」である。

宇左衛門カキ：山本(13)の調査した時の原木の大きさは、樹幹の廻り1.8m(6尺)、高さ20m(60尺)余りに達し、極めて豊産で盛果期には12,000個も数えられたと伝えられている。果実の大きさ200g(50匁)内外、形扁円なるも、少し方形を帯び、頂部は丸く、果皮は紅色を呈し、肉質柔軟、甘味稍多く、11月上旬に採り「じゅくしカキ」とする。

伊左衛門カキ：山本(13)の調査によると、樹勢強健、豊産性のもので、果実の大きさ180g(45匁)内外、扁円形にして頂部尖り、やゝ四方に瘠せているが底は豊円である。時に四条の甚だ浅い縦溝があらわれけれども横断面は殆んど丸い。果皮は朱黄色を呈し、味は淡白であるが果肉さくさくして歯ざわりがよい。

2. 雲然カキ

雲然カキは、仙北郡角館町雲然の特産種として知られ、カキの木の林立しているさまは、雲然部落の一偉観である。山本(14)の調査によれば、「古老の云ひ伝うるところによれば、雲然部落の鈴木佐太郎氏の祖先に鈴木與治右衛門と云う人があって、その当時、上方(関東地方)よりカキ苗木を持ってきたものが、そもそもの始まりらしい。原木は凡そ200年以上を経たものようである。その原木は枯れていたが、今なお100年以上の老木がみられる。もとは元祖鈴木與治右衛門に因んで「與治右衛門カキ」と名付けられていたが、市場に出荷するようになってから産地名をとって「雲然カキ」(クモンシカリカキ)と呼ぶようになった。また、佐藤(6)によれば「雲然カキ」の母樹とみられていたカキについては、角館町雲然上碓 小林利兵衛宅内にあったカキで、樹令約270年(推定)高さ40m余り、周囲は根元で2.4mもあったが、キティ台風{昭和24年(1949)9月1日}で倒れた。現存する雲然カキは中果で、果実の揃いやゝ良好、扁円形、横断面は楕

円形で側面に明瞭な四条の浅い溝があり、果頂わづかに凹入、蒂窪浅く狭い、萼片は大きい四片、果色は帯黄紅色、光沢あり、果粉多く、果肉黄白色、肉質やゝ粗にして多汁、甘味多く、品質は中位、渋抜きやゝ困難で、渋抜き後の日持が悪く、黒変する欠点がある。また、隔年結果の習癖が強く、老木になるにつれて下垂枝が目立ち、渋カキ横野の系統ではないかといわれている。

3. 松原カキ

松原カキは、秋田市添川字松原で秋田駅から約4kmばかりの地点で名利補陀寺で知られる地域一帯に植えられたカキで昔から名物であったが、近年は年々伐採されその面影が少なくなっている。

山本(15)の記録によれば「正平年間(1350年頃)秋田城之助守秀が月尚和尚に請ひ、松原の地に補陀寺を創建し、その二世無等量良雄和尚は南朝の忠臣藤原藤房の後身で、この地に下向のとき持ってきたものであらうと云い伝えられている。また、一説にはおよそ350年前藩主佐竹公が秋田に遷封された当時、この地に移植されたとも伝えられるが親木は枯れ果てている。」現在、松原の工藤正吉宅内に存しているものが最も古い木で樹の高さ約20m、枝の開張30mに及び樹令200年余を経たものようである。

樹勢は頗る強健、豊産性で、果実重は約40g内外の球形の小果で、果皮薄く、鮮麗な紅色を帯び蒂の周囲に黒の輪紋があらわれ、種子は全然ない。11月上旬、樹上で色づいた頃採って箱又は俵に詰め窖に入れて一週間許りで取り出すと特有の色沢が現われ、渋味も抜けて、果肉は溶けるように軟くなり濃厚な甘味となる。松原の附近で色も形もよく似ているが多少種子のあるものがあり本場の松原柿と区別している。

Ⅲ. 在来「カキ」の形質調査

1. 調査方法

在来カキについては、山本(13、14、15)の調査地点の原木を対象としたが、原木の消失したものは、集

団植栽地において聞きとり調査し、その地域において最も古いと思われる樹について調査を行なった。なお、開花期と花の形態については、昭和54年6月に調査を行なった。調査基準については広島県果樹試験場の調査項目に従って行なった。

2. 調査結果および考察

(1) 横手カキ

横手カキには2系統あり、1つは伊左衛門(酩シカキ)他は宇左衛門(熟シカキ)である。両種とも横手市上内町松井雄氏(伊左衛門)と鈴木剛氏(宇左衛門)の宅地内にあり、樹高は14mを越し、幹周も136、120cmと非常に太くなっている。樹の広がりも9m四方に広がり巨木である。接木によって繁殖しているので、形質は昔のままと思われる。現在栽培の多い平核無よりも品質は劣るようである。

伊左衛門については、広島県果樹試験場の取りまとめた結果によると、同名の品種は、静岡県志太郡原産とあり、今回の調査対象は農林水産省果樹試験場安芸津支場、京都大学農学部、秋田県果樹試験場の3カ所で調査されている。その特性は「熟期は10月下旬、果実は大きさ中位、腰高の扁円で果頂部が細く、やや擬宝珠形を呈している。果皮は橙朱色、鮮麗で外観優美、褐斑は甚だ大きく、種子を中心に密集し、果心も太く、肉質は甚だ粗く、硬く脆く、繊維が多く、品質は不良

である。半渋果が多く、人工脱渋を必要とする。」

京都大学農学部では静岡県原産としている。秋田県に導入された経緯からすれば茨城県といわれているが同名異品種なのか、全く同一のものなのか、今後の比較検討が必要である。

(2) 雲然カキ

秋田県仙北郡角館町雲然 鈴木修一氏の宅地内の最も古い大木について調査を行なった結果では、樹高約15m、広がり13mである。幹周も175cmと巨大である。果実そのものは種子数が多く、果径が小さいことから商品価値が乏しいため、年々伐採がすすんでいる現状である。しかし、一部に平核無の高接が行なわれ、品種更新が徐々に行なわれている。

(3) 松原カキ

秋田市上松原 工藤正吉氏宅地内にあるものは、樹高12mを越す大樹で、広がりも8m四方に広がっている。果実は円形であり、核無しが特長となっている。小粒であり、現在、商品価値は全くみられない。年々伐採され、大樹も少なくなっている。工藤正吉氏宅には昔使用した渋抜き用のムロが残されている。

秋田県在来カキの特性(1)

品種名 項 目		横 手 柿 (伊左衛門)	横 手 柿 (宇左衛門)	雲 然 柿	松 原 柿
樹	樹 姿	中	中	開張	直立
	樹 勢	強	強	強	強
枝	枝 の 密 度	中	密	密	密
	粗 皮	粗	中	粗	粗
芽	長 さ	短	短	短	短
	太 さ	中	細	細	細
	節 間	短 (2.6 cm)	短 (1.8 cm)	中 (4.3 cm)	中 (3.4 cm)
	皮 目	中	中	中	中
葉	芽 の 大 き さ	小 (2.9×3.2mm)	小 (3.2×3.6mm)	中 (3.6×4.2mm)	小 (3.0×3.1mm)
	芽 の 形	三角	三角	三角	三角
葉	成 葉 の 大 き さ	縦 12.9cm 横 7.5cm	縦 13.5cm 横 7.1cm	縦 12.7cm 横 7.2cm	縦 15.2cm 横 8.3cm
	葉 身 の 形	楕円	楕円	楕円	楕円
	葉 脚 部 の 形	鈍—中	鈍	中—鈍	鈍
	葉 肩 部 の 形	中	中	中	中
	葉 端 部 の 形	中	中	鈍	中
	葉 身 頂 端 の 形	円	円	円	円
	葉 の 長 短	中	中	中	中
	(葉 形 指 数)	58	52	57	52
	葉 身 の 展 開 状 態	平	平	平	平
	葉 面 の 波 状 性	波状弱	波状弱	波状弱	波状弱
	葉 縁 の し わ	なし	なし	なし	なし
	異 常 葉	なし	なし	なし	なし
	葉 柄 の 長 さ	短 (1.2 cm)	中 (2.1 cm)	中 (1.8 cm)	中 (2.0 cm)
	葉 柄 の 太 さ	中 (0.27 cm)	中 (0.31 cm)	中 (0.30 cm)	中 (0.28 cm)
	落 葉 の 早 晚	中	早	中	中
	落 葉 時 の 葉 色	褐色葉	褐色葉	褐色葉	褐色葉
雄花	着生の有無多少	なし	有少	なし	なし
	開 花 の 早 晚	—	—	—	—
雌花	花 の 大 き さ	3.30×3.10 cm	3.56×3.49 cm	4.82×4.72 cm	2.66×2.71 cm
	両 全 花 の 有 無	有	有	有	有
	花 の 咲 き 方	水平	水平	水平	水平
花	上からみた萼片の形	広十字	広十字	中太十字	方形

秋田県在来カキの特性(2)

品 種 名 項 目		横 手 柿 (伊左衛門)	横 手 柿 (宇左衛門)	雲 然 柿	松 原 柿
果 実 (形 態)	成 熟 期	晩	やや早	やや晩	晩
	大 き さ	小(76g)	やや大(156g)	極小(42g)	極小(37g)
	全 形	円(または方)	扁	扁	円(または方)
	果 形 指 数	0.91	0.72	0.88	0.95
	縦 断 面 の 形	宝珠形	扁形	扁形	円形
	頂 端 の 形	円	平	凹	平
	微 尖	あり	あり	あり	あり
	横 断 面 の 形	円	円	方	円
	果頂裂果の有無多少	なし	なし	なし	なし
	座の有無大小	なし	なし	なし	合弁花状黒い輪紋
	蒂 部 の し わ	なし	少	なし	なし
	蒂 隙 果 の 多 少	なし	少	少	なし
	溝の有無と数	なし	1-2条	1条	なし
果 梗	果 梗 の 長 さ	短(1.32cm)	中(1.52cm)	長(1.85cm)	短(0.71cm)
	果 梗 の 太 さ	細(0.31cm)	細(0.26cm)	細(0.30cm)	細(0.33cm)
蒂	蒂 の 全 形	肩太く凹	肩太く凹	中太く凹	肩太く凹
	蒂 の 形	扁平	中	やや扁	中
	蒂 の 頂 端 の 形	太く鈍	中鈍	中鈍	中鈍
	蒂 の 大 き さ	小	小	中	小
	果 実 に 対 す る	斜向	横向	横向	外に向く
	蒂 の 向 き	斜向	横向	横向	外に向く
蒂 窪	異常蒂数の有無程度	少	なし	なし	なし
	上からみた蒂窪の形	方形	円形	方形	尖方
	蒂窪の側面の形	凹U	凹U	凹U	平
	蒂窪の広狭	狭	狭	中	狭
果 皮	蒂窪の深淺	浅	深	浅	浅
	果 皮 の 色 彩	橙	橙朱	橙黄	橙黄
	光 沢	少	少	中	少
	龜 甲 紋	なし	なし	なし	なし
皮	條紋の有無多少	なし	なし	なし	なし
	果 粉 の 多 少	少	少	少	少

秋田県在来カキの特性(3)

品 種 名		横 手 柿 (伊左衛門)	横 手 柿 (宇左衛門)	雲 然 柿	松 原 柿
項 目					
果 肉	種別 (甘渋別)	不完全渋柿	不完全渋柿	不完全渋柿	完全渋柿
	褐斑の多少	微少	少	微	なし
	褐斑粒子の大小	少	少	少	なし
	果心の大小	細	太	中	細
	果心の形	長三角	長方	長方	長方
	肉質	中	やや密	中	やや密
	甘味	中	中	中	中
	渋味	微	なし	なし	なし
	果汁	中	中	中	中
	品質	中	中	中	中
種 子	種子数	中(3.1個)	中(3.4個)	中(5.8個)	無
	大きさ	小(15.2×0.94cm)	大(20.3×0.98cm)	中(16.8×10.3cm)	なし
	種子の形	短三角	長	短三角	なし
	種子の長短	短	長	短	なし
	種子の厚さ	薄(0.41cm)	薄(0.33cm)	中(0.51cm)	なし
	種子の色	褐色	茶	褐色	なし
	種子の色の濃淡	淡く明色	濃く暗色	中	なし
そ の 他	耐霜性	普通	弱	弱	弱
	樹上軟化	少	多	中	少
	日持ち性	中	悪い	中	悪い
調 査 地		松 井 雄	鈴 木 剛	鈴 木 修 一	工 藤 正 吉
		横手市上内町	横手市上内町	仙北郡角館町	秋田市上松原
樹 高		13.9m	14.3m	15.4m	12.6m
広がり EW		9.3m	9.2m	13.0m	8.1m
S N		9.9m	8.5m	9.9m	8.0m
幹 周		136cm	穂木120cm 台木110cm	175cm	173cm

Ⅳ. 摘 要

1978年秋から1979年にかけて秋田県内に散在しているカキの在来種について、特性を調査した。

1. 横手柿

俗称で横手柿と呼ばれているが、伊左衛門・宇左衛門の2品種が含まれており、共に渋ガキである。

(1) 伊左衛門

横手市およびその周辺の宅地内に散在し大木となっている。果実の大きさは平均76gでやや小さく、果形は擬宝珠形、横断面は円形、子室数は9～10と多い。果色は橙色である。果肉はやや固く、果汁中位、食味はややうすい。成熟期は10月下旬、雄花の着生はなく不完全渋柿で酎柿として利用される。

(2) 宇左衛門

横手市およびその周辺に散在するが、伊左衛門より少ない。果実の大きさは平均156gで中位、果形はやや扁形、横断面は円形、子室数は9～10と多い。果色は橙朱色である。果肉は軟く、果汁は中～やや多い。成熟期は10月中旬、雄花の着生少、不完全渋柿で熟柿として利用される。

2. 雲然柿

角館町雲然の宅地内、畑の周辺に散在し、大木となっている。果実の大きさは平均42gで小玉である。果形は扁形、横断面は方形である。子室数は8室、種子数5.8個と多い。果色は橙黄～黄色である。果肉はやや硬く、果汁中位である。成熟期は10月下旬、雄花の着生ない。不完全渋柿で、酎柿として利用される。

3. 松原柿

秋田市松原の宅地内に散在し大木になっている。果実の大きさは平均37gで極小である。果形は円形、横断面も円形である。子室数は8室で中位であるが、無核種である。果色は橙黄色、合弁花状の輪紋がある。

果肉は緻密で果汁多い。成熟期は10月下旬、雄花の着生はない。完全渋柿で酎柿として利用される。

上記の4品種は、地方的品種で、以前は地方市場で流通したが、現在は自家用に利用される程度に収穫されるほかは樹上に放置され、徐々に伐採の傾向にある。

Ⅴ. 参 考 文 献

1. 梶浦実編(1958) カキ・クリ農山漁村文化協会
2. 片岡 寛(1962) 柿・栗栽培の技術と経営 朝倉書店
3. 菊地秋雄(1948) 果樹園芸学上巻 果樹種類各論 養賢堂
4. 木村光雄(1951) 柿編 養賢堂
5. 北川博敏(1970) カキの栽培と利用 養賢堂
6. 佐藤政一(1972) 北家と柿の栽培 角館誌(植物)
7. 傍島善次(1959) 柿 朝倉書店
8. 農商務省農事試験場(1921) 柿の品種に関する調査 農事試験場報告第28号
9. 並河 功(1937) 京大農場に蒐集柿品種の記載 園芸学研究集録 第2輯 193～232
10. 永井計三(1928) 柿の分類諸式 園芸の研究 23:196～201
11. 広島県 (1976) 種苗特性分類調査報告書(カキ)
12. 藤田貫一(1976) 横手柿 続横手郷土史 588～591 横手町
13. 山本薫静(1937) 秋田県特産果樹(横手柿) 秋田県農会報276号 36～37
14. ——— (1938) 秋田県特産果樹(雲然柿) 秋田県農会報310号 40～47
15. ——— (1938) 秋田県特産果樹(松原柿) 秋田県農会報317号 53～54



写真1 横手柿 伊左衛門



写真2 横手柿 宇左衛門



写真3 雲然柿



写真4 松原柿



写真5 宅地内の横手柿



写真6 伊左衛門の着果状況

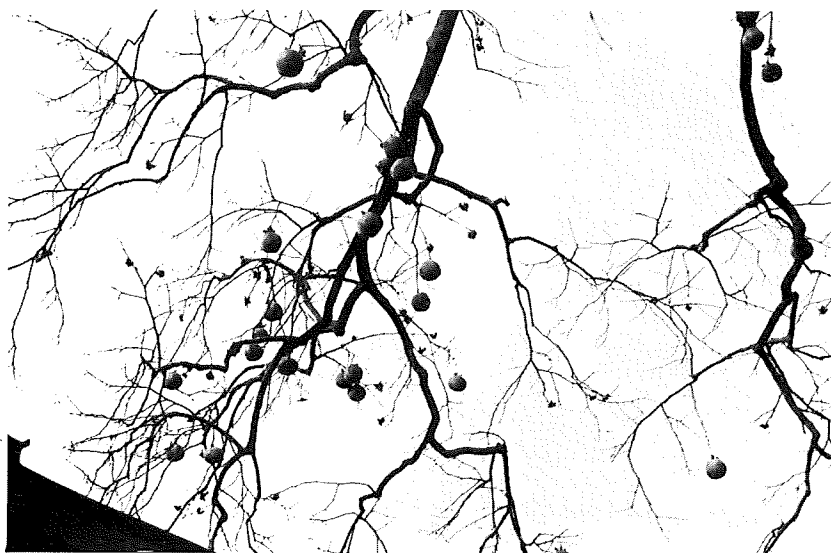


写真7 宇左衛門の着果状況



写真8 散在する雲然柿



写真9 宅地内の松原柿



写真10 松原柿の脱渋に使用されたムロ

Surveys on the Native Fruit Trees in Akita Prefecture

1. A Survey of Japanese Persimmon Trees

Hiroshi Suzuki, Sadao Tanno and Tatsuo Taguchi

Summary

From autumn 1978 to the next year, a survey was made of the native varieties of Japanese persimmon trees grown in Akita Prefecture.

1. Yokote persimmons

Known as Yokote persimmon trees, there are 2 varieties (Izaemon and Uzaemon), both of which are astringent.

a) Izaemon

Izaemon tree occurs scattered in the building lots of Yokote City and its outskirts, and grown already giant. Its fruit has 76g on an average, hosta shape (like a round conic), round cross-section, and 9 to 10 loculi. It also has orange color, rather hard flesh, medium amount of juice and a little light taste. Its maturation period is late October. It is a polination variant astringent persimmon, without formation of male flowers and is available as removed astringency.

b) Uzaemon

Uzaemon tree which also occurs scattered in Yokote City and its outskirts, is fewer than the former tree. Its fruit has 156 g on an average, rather flat shape, round cross-section and 9 to 10 loculi. It also has orange-vermillion color, soft flesh and medium to slightly much amount of juice. Its maturation period is middle October. It is a polination variant astringent persimmon with a little formation of male flowers and is available as mellowed persimmon.

2. Kumoshikari persimmon .

Kumoshikari persimmon tree occurs scattered in the building lots and about the fields of Kakunodate-cho Kumoshikari, and grown already giant. Its fruit has 42 g on an average, flat shape, square cross-section, and 8 loculi with 5.5 seeds per fruit. It also has orange-yellow to yellow color, rather hard flesh and medium amount of juice. Its maturation period is late October. It is a polination variant astringent persimmon without formation of male flowers and is available as removed astringency.

3. Matsubara persimmon

Matsubara persimmon tree occurs scattered in building lots of Matsubara in Akita City and grown already giant. Its fruit has 37 g on an average, round shape, round cross-section, 8 loculi medium but seedless. It also has orange-yellow color, gamopetalous flower-shaped ring crest, delicate flesh and abundant juice. Its maturation period is late October. It is a polination constant astringent, without formation of male flowers and is available as removed astringency.

The above four varieties, which are all local varieties, had formerly been distributed on local market, but now are left on trees as they are to be cut down gradually except that they are harvested for domestic use at most.

